

だがしや楽校 @ 山形・みなみ公園

にちじ：2011 年 6 月 5 日（日）10:00～11:30

ばしょ：山形市・みなみ公園（山形市南一番町）

2011 年 6 月 6 日（日曜日）晴れまたは薄曇りのち曇り夜一時雨

【だがしや楽校@山形・みなみ公園】

今年もやってきました東北芸術工科大学・学生さんによる“だがしや楽校@山形・みなみ公園”の季節。それだけで私（山口）はウキウキです。そのためでしょうか、始まり時刻の 50 分前の午前 9 時 10 分には、駄菓子屋“はじめや”前に着きました。

今年の 2 月、だがしや楽校（だがしや楽校だがしや倶楽部）は“未来を築く子育てプロジェクト”の“子育て支援活動の表彰”部門で、グランプリにあたる“未来大賞”と“厚生労働大臣賞”を受賞しました。

表彰式に参加できなかった駄菓子屋“はじめや”のおばちゃん・山川さんに受賞報告をした際、おばちゃんとの話で、「受賞を記念し、みなみ公園の桜が美しく咲きそろう 4 月に“だがしや楽校@みなみ公園”を開きましょう」ということになりました。満開の桜の下での“だがしや楽校”・・・楽しみです。しかし・・・

3 月 11 日の出来事で、その話は流れてしまいました。

ただし、それは自粛ではなく、“だがしや楽校”でも、被災地の子どもたちや避難所で生活する子どもたちに対して支援活動を展開したからです。4 月には山形市で 4 週間にわたり“東日本大震災支援・だがしや楽校&ライブ&バザー”が開かれました。

それでも、4 月に“だがしや楽校@みなみ公園”を開けなかったことは心残りでした。

加えて、東北芸術工科大学の入学式が例年より半月以上遅れて 4 月 24 日に執り行われるなど、東日本大震災は、大学の活動にも大きな影響を及ぼしました。

それで、例年なら 6 月に入ると開かれる東北芸術工科大学・学生さんによる“だがしや楽校@みなみ公園”も「遅れるのではないかと心配したのです。

このような経緯もあり、例年通りに開かれることを知った時には、いつも以上にウキウキしたわけです。

駄菓子屋“はじめや”前に着きますと、すでに数人の学生さんが集まっていました。これまた例年以上の早さです。でも、駄菓子屋“はじめや”はシャッターが閉じていました。おばちゃん、朝用事で出掛けていたのです。

しばらくして、おばちゃんが帰ってきました。

私の顔を見たおばちゃん、シャッターを開くと「必要な部材（ブルーシート、ビールケース、コンパネなど）を学生さんに運んでもらってください」と言います。オッと、私は学生さんに指示する立場ではありませんが、せっかく学生さんも集まっていますし、なるべく早く準備した方が良い

と思い、“だがしや楽校”でもあることですし、ここか柔軟に考え、学生さんには始めにおことわりをした上で、部材の運搬をお願いしました。

まもなく片桐さん（東北芸術工科大学）と、今回の“だがしや楽校”ではサブティーチャーを務めているYoshiさんが到着します。これで、はじめはぎこちなかった準備作業は、子どもたちがお手伝いしたこともあって、一気に進みました。

子どもたちは“だがしや楽校@みなみ公園”を待ちわびていたのです。

やがて、けん玉・お手玉などの昔遊びの屋台を出してくださるSさんたちも到着、学生さんにテーブルとイスなどを運んでいただき屋台をつくりました。

こうして午前10時、待望の“だがしや楽校@みなみ公園”は始まりました。



まずは東北芸術工科大学（以下「芸工大」と表記します）学生さんが出された5つの屋台をご紹介します。今回もなかなかユニークな屋台が登場しました。

▼スライム合戦



お馴染みスライム遊びですが、ここではスライムを放り投げています。すると、紙にはスライムによるアートが……。いかにも芸工大・学生さんらしいおみせです。



でもやっぱり子どもたちは、グニュグニュして遊ぶ方が大好きかな。

始まる前から子どもたちが集った人気の屋台でした。

終わる頃にはコンパネがスライムで真っ赤になってしまいましたが、ここでも子どもたちが掃除を手伝いましたので、きれいになりました。昨年（2011年）11月、私が主宰した“だがしや楽校@みなみ公園”でも感じたのですが、子どもたちは進んでお手伝いしてくれます。

▼もこもコップNEO



芸工大の“だがしや楽校”では伝統（？）の“もこもコップ”のグレードアップ版“もこもコップNEO”。一回り大きくなったコップを使っています。

ジワジワと子どもたちが集い、いつの間にかにぎわっていた屋台でした。

なお、右の写真の右側に写っている方は、子どもたちが安心して過ごせる場（体験広場）を推進する活動に、この6月より取り組まれている Doi さんです。“だがしや楽校”仲間に加わりました。



▼あっというまにインディアン



これまたユニークな屋台です。顔をビニールで覆い、その上に顔を描きます。描くとインディアンのように見えるから“あっというまにインディアン”なのでしょう。



お子さんの顔に描くおかあさん。親子で楽しむことができるのも“だがしや楽校”の良さです。描いた顔に描き加えて、楽しい顔に仕上げていきます。

向き合いながら顔を描いている様子を見て、「自分もやってみよう」と思った子どもたちが多かった屋台でした。

▼カザリヒコーキ



紙飛行機ですが、絵を描いたり、ヒモなどの飾りを付けたりして、楽しさいっぱい、アイデアいっぱいの遊びになりました。



ここも早くから子どもたちが集まった屋台でした。作る楽しさ、飛ばす楽しさという2つの楽しさを体験できる屋台です。

▼テボラ村村長ぼしゅう中

はじめの内はなかなか子どもたちが集まらなかった屋台でした。私（山口）も、どんな屋台なのか、イマイチわからない屋台でした。

ちなみに私の取材では、屋台の内容をインタビューして知ることは多いものの、一方で、自分の目を見た印象で屋台の内容を理解していくこともあります。つまり、感性によって屋台を見る・感じることを大切にします。

ですから、屋台を出された学生さんの思いと微妙に異なる感じ方で紹介することもあり得ます。これって、「事実を伝える」というマスコミによるニュース・報道では「いけないこと」です。しかし、一人ひとりの思いを大切にする、なんでもありの“だがしや楽校”では、「こんな伝え方もありではないか」と勝手に思っています。

そんなことを考えている内、子どもたちがペットボトルなどの材料を使って何かを作り始めました。屋台にはお面もあります。どうなるのでしょうか。



どうやら音が出るモノを作っているようです。

みんなが作り終わりますと、学生さんの合図で一斉に音を出します。ガチャガチャという音がみなみ公園に響き渡ります。一番大きい音、一番小さい音だった人がお面をかぶり、村長さんになります。



作るだけでなく、学生さんと子どもたち、子どもたち同士でコミュニケーションをしながら遊ぶという高度な屋台です。

右の写真は、小さなお子さんがペットボトルを持って「ボクのも音が出るよ！」

以上が、芸工大・学生さんの屋台です。



▼昔遊び

“だがしや楽校@みなみ公園”では欠かせないSさんたちの昔遊びの屋台です。けん玉やお手玉などが準備されました。

そう言えば、“だがしや楽校@みなみ公園”では大変お世話になった月岡茂さん（元日本けん玉協会西東北総支部長）が去る5月26日に亡くなりました。89歳でした。

けん玉の遊び方を教える月岡さんは真剣そのもので、子どもだけでなく、周りの大人まで引き込まれるほどでした。けん玉の技ができますと、その場でけん玉認定証を交付していましたので、遊ぶ方も当然真剣になります。これがまた、独特のコミュニケーション空間を醸し出していたのです。

月岡さんは、テレビでも紹介されたほどの活躍ぶりでした。

最近お姿を見掛けませんでしたので、「どうなされているのかな」と思っていました。そんな矢先の突然の訃報に、驚きました。とても残念です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



この日も子どもたちだけでなく、大人も真剣に遊んでいます。とても良い風景です。
 その中に、楽描きのリクリンさんの姿がありました。そのリクリンさん、この日もイタズラを始めました。

▼フィルムケースロケット

阿部進先生（カバゴン先生）直伝の“フィルムケースロケット”です。
 水を入れたためになかなか発射しないロケット。忘れた頃に発射して大騒ぎ？！
 でも、これで子どもたちは大盛り上がりです。



（写真中）私のカメラにポーズを取っていた子どもたち。

（写真右）発射直後には表情が変わっていました。

リクリンさんをはじめ、この日の“だがしや楽校@みなみ公園”には、山形の“だがしや楽校”仲間が大集結、さらに盛り上がりました。

▼折り紙

天童市の“だがしや楽校”仲間・Ashino さん夫妻が出されたのは折り紙の屋台です。この日はネコを折りました。



子どもたちだけでなく、学生さんも挑戦です。一方の Ashino さんのご主人は、けん玉に興じております。

“だがしや楽校” ウェブマスターの Koba さんが、お子さんといっしょに遊びに来られました。Koba さんとお会いするのは久しぶりです。お元気そうで、ホッとしました。

加えて、鶴岡から Genta さんとそのお友だち 2 名が遊びに来られました。Genta さんとはチョー久しぶりです。“全国寄り合い” ならぬ“山形寄り合い” のような雰囲気になってきました。



(写真左・中) もこもコップや折り紙で遊ばれる Koba さんたち。

(写真右) Genta さんとお友だちです。女性の方は、合間に美しい歌声を披露されました。

歌声と言えば・・・丹波恵子さん（シンガーソングライター）もやってきました。でも丹波さん、歌を忘れて（？）お手玉遊びに夢中です。



(写真左) 中央が丹波さん、左は片桐さん、右は Yoshi さんです。

その Yoshi さん、終わりのミーティングで、個展の紹介をしていました。“だがしや楽校” でお馴染みの Yoshi さん、本当は風景画、それも山形の里山や農村にこだわっています。



リクリンさんからは、毎月第 2 日曜日の午前中開いている“楽描き” の紹介がありました。

こうして、今年（2011 年）初めての“だがしや楽校@みなみ公園”は、アッという間に終わりました。

日曜日の午前中だったこと、子どもたちが待ちわびていたこともあり、いつもより大勢の子どもたちが集い、とても良い感じの“だがしや楽校”になりました。

まったり感を感じる空間もあれば、にぎわい・にぎやかさを感じる空間、おまつりのように感じる空間、ホッとする空間もありました。それは、いろんな空間が混在する「不思議な」そして「魅力ある」風景を醸し出していました。

これも、学生さんの創造性に富んだ5つの屋台によって生み出された風景でした。

今回の5つの屋台、当初は子どもたちの反応に違いがあったものの、結局は5つの屋台とも学生さんと子どもたちがいっしょになって遊んでいました。

片桐さんも「きょうの“だがしや楽校”は本当に良かったです」と言っていました。

そこに加えて、“だがしや楽校”仲間の大人たちが加わり、世代を越えた交流空間“だがしや楽校”風景を見ることができました。

大震災以降、初めてお会いした方もおり、皆さんお元気な様子に、ホッとしました。

それにしても、いくら“だがしや楽校@みなみ公園”を待ちわびていたとは言え、子どもたちが大学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんに、すぐに溶け込んでいく風景には驚くと共に、今の子どもたちも本当は、地域の人たちと、外に出て、思いっきり遊びたいんだ、とあらためて感じました。

準備から後片付けまでお手伝いする子どもたち。学生のお兄さん・お姉さんとのコミュニケーションを楽しむ子どもたち。その一方で好き勝手に遊ぶ子どもたち。続々やってくる“だがしや楽校”仲間の大人とも遊ぶ子どもたち。私がカメラを向けますと、ポーズを取ってしまう子どもたち。最高の子どもたちです。

学生さんには、そんな子どもたちの思いをくみ取っていただきたいと思います。

私が住んでいる米沢からひと山越えただけのところにある福島市では、思いっきり外で遊ぶことができないのです。なんということでしょう。

見えない敵にさらされている福島の子どものことを思うと、この日の“だがしや楽校@みなみ公園”を見ているだけで胸が詰まる思いです。

太陽の下、青空の下、思う存分遊ぶという当たり前のことが、山形県の隣りでは、当たり前でなくなってしまったのです。

大人の論理・ご都合主義・合理主義で突き進んできた戦後の日本。大切な何かを置き去りにして歩み続けてきた戦後の日本。今、そのツケが回っているのです。それも次世代を担うはずの子どもたちに・・・。

大震災によって、“だがしや楽校”から見える人と人との「つながり」「絆」の大切さが見直されていますが、私はそれだけではないと思います。

すでに「がんばろう・・・」と言いながら、これまでの何かを置き去りにした経済主義に戻ろうとする動きが見え隠れしています。

この日の“だがしや楽校@みなみ公園”は、これまでの経済主義や合理主義の世界とはまったく異なる風景でした。でも、何かが生み出された空間でもありました。生きる希望や夢につながる空間でした。

だから、大勢の“だがしや楽校”仲間が集いました。

大震災と原発事故から“だがしや楽校”を通して見えてきた人間として本当に大切なモノ。それを感じながら、この日の“だがしや楽校@みなみ公園”を振り返ったのであります。

※おまけコーナー：暈と環水平アーク

11時53分頃、みなみ公園の上空に、暈（かさ）が現れているのを、皆さんが発見しました。見上げてみますと、なるほど見事な暈です。早速、写真に撮りました。

暈は、太陽の光が水蒸気や氷の結晶によって屈折され、太陽の周りに光の輪が現れる大気光学現象です。条件としては、水蒸気や氷の結晶が適当な量であることです。量が多ければ雲になってしまい、屈折どころか光を通さなくなります。もうひとつの条件は、水蒸気や氷の結晶の粒の大きさが同じであることです。

暈は、日暈（ひがさ）とか暈雲（かさぐも）と呼ばれています。



さて、これだけ見事な暈が現れましたので、「環水平アークも現れているのではないか」と思ったのですが、ほとんど見えません。それでも、皆さんと談義しながら空を注目していると、徐々に環水平アークが現れてきました。そこで、再びカメラで撮影しました。



環水平アークは、暈の外側に現れます。それも現れる角度が決まっています。大ざっぱに言いますと、太陽の下側に現れます。従って、太陽が高い位置でないと見えませんので、環水平アークは、夏至を中心にした2～3ヶ月間、それも真昼を中心にした数時間だけ見ることができます。

環水平アークも、適度な水蒸気や氷の結晶が、同じ大きさの粒に揃っていることが条件です。ただし、暈は白い輪に見えるのに対して、環水平アークはプリズム偏光により、虹のように見えます。それで、丸い虹と違って、ほぼ真っ直ぐな虹に見えることから、環水平アークが現れますと、気象台へ問い合わせがあります。

山形県でも5月に観測されています。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター